第2回　金融庁　AI官民フォーラム

事務局説明資料

2025年9月18日

総合政策局 暗号資産・ブロックチェーン・イノベーション参事官室
イノベーション推進室

金融庁

1. 第1回フォーラムで提示した論点のマッピング

	社内利用（業務の効率化/抜本的変革）	対顧客サービスへの利用
ユースケース	• **業態横断的**：文書要約・翻訳・ドラフト、情報検索、システム開発（コーディング・レビュー等）、マーケティング、コンプラ対応等 • **業態固有**：預取（与信審査等）、保険（引受審査、査定、保険販売等）、証券（金融商品販売等）、資産運用（トレーディング等）、監査（リスク評価、異常検知等） **→業態に応じた規律の適用関係**（例：AIチャットボット利用時の保険募集該当性）	
データ	社内データ等を利用せず 学習済モデルを汎用的に利用	◆ **データ利活用に係る論点** • ビジネス上の論点：社内データ整備、社外データ活用、基盤モデルのカスタマイズ等 • 規制上の論点：個人情報保護、外部委託先管理等
モデル	◆ **AIモデルの適切な開発・導入・運用とモデル・リスク管理**	
	一部の社内利用においては 影響軽微	◆ **説明可能性・公平性・ハルシネーション等への対応** • 業態・ユースケース等を踏まえたリスクベースでの対応 • 特定のモデルへの過度の依存等に起因するリスクの特定及び対応（金融排除等） • リスク低減に向けた具体的な取組み（例：ガバナンスツールやRAGの活用）
態勢構築	◆ **経営陣の適切な理解と主体的な関与**（例：経営戦略、投資判断） ◆ **社内規程の整備** ◆ **専門人材の確保・育成、社内教育** ◆ **外部組織との連携・サードパーティリスク管理** ◆ **AIの悪用への対応**（例：フィッシング等の金融犯罪、サイバー攻撃）	
国際的論点		◆ **投資家保護・市場の公正性に関する論点（IOSCO等）**
	◆ **金融安定上の論点（FSB等）** 少数のサードパーティへの依存、市場連関性の増大、サイバーセキュリティ、モデル・リスク管理	

※　本マッピングは叩き台であり、本フォーラムにおける議論を踏まえて更新予定。また、上記は主にLLM／生成AIを念頭に置いたものだが、従来型AIも本フォーラムにおける議論の対象とする予定。

2. 第2回フォーラムの位置づけ

- 2022年以降、**生成AI**が普及し、2024年以降、**AIエージェント（エージェンティックAI）**が普及。学習済みモデルである**LLM（大規模言語モデル）**や**各種のAI基盤**を通じて、**業務効率化・高度化の余地**が広がるとともに、**AI活用の裾野**が広がっている。
- 昨年の実態調査では、AI活用を進める上で、**データ整備**が大きな課題との認識が示されている。
- LLMの特徴として、**①ユーザー企業における学習が必要なく、②非構造化データの処理が得意であること**が挙げられる。これらの特徴により、**データ整備を考える上でのポイントが変化している可能性**がある。
- RAGやAIエージェントを導入する上では、**各種の情報の不適正利用の防止**や**サイバーセキュリティ**の観点から、**適切な権限管理等の環境整備**が必要と考えられる。
- そこで、**技術の進展を踏まえたデータ整備その他の環境整備**について、議論を深める。

3. 第1回フォーラムで示された意見

データ整備関係

- データそのものが差別化であり、どう使うかも差別化であるという認識が必要。
- どのようにしてデータを集約するか、どのようにして安全に使用するかが課題。データプラットフォームの整備が生成AI活用のボトルネックになってきている。
- AI活用を進める上での主要な論点の一つはデータガバナンス。社内の様々なデータベースに保存されている情報をデータレイクに集めるべきか、データベース自体にAIを実装して運用するべきか検討が必要。データ周りのインフラ設計・ガバナンス構築が重要な課題。
- データについてはクレンジング、つまり知識として意味があるデータの分別が必要。Garbage in, garbage outと言われる通り、元のデータの品質が確保されていなければアウトプットの質は高まらない。
- エージェンティックAIでは、例えばデータの最新性が課題。
- 今後、エージェントが組織に組み込まれるために最も重要なのは、認証・認可とデータ。エージェントに人間と同じようにIDを付与し、人間と同じ権限・アクセスコントロールでデータを管理する必要がある。

4. 本日のアジェンダ

1. 事務局説明

2. プレゼンテーション

佐藤 市雄 氏（一般社団法人金融データ活用推進協会(FDUA) 理事 兼 事務局長）

三代 剛 氏（デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社 マネージングディレクター）

3. パネルディスカッション

磯和 啓雄 氏（三井住友フィナンシャルグループ 執行役専務 グループCDIO）

江見 盛人 氏（三菱UFJフィナンシャル・グループ 執行役員 グループCDO）

佐藤 市雄 氏

生田目 雅史 氏（東京海上ホールディングス 専務執行役員 グループCDO）

〔モデレーター〕島崎 征夫（金融庁総合政策局参事官）

問合せ･意見提出先

ai.survey@fsa.go.jp
総合政策局 イノベーション推進室

金融庁
Financial Services Agency